

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
Please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-250201

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)10月31日

A 41 B 13/02

A-7149-3B

9/12

E-7149-3B

A 61 F 5/44

H-7603-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全14頁)

⑮ 発明の名称 二重カフスを有する吸収性製品

⑯ 特 願 昭61-241889

⑰ 出 願 昭61(1986)10月11日

優先権主張 ⑱ 1985年10月11日 ⑲ 米国(US) ⑳ 786926

㉑ 発 明 者 マイクル、アーワイ アメリカ合衆国オハイオ州、シンシナチ、タリートン、ドン、ローソン ライブ、308

㉒ 出 願 人 ザ、プロクター、エンド、ギャンブル、カンパニー、エンド、ギャンブル、プラザ(番地なし)

㉓ 代 理 人 弁理士 佐藤 一雄 外2名

明 細 書

発 明 の 名 称

二重カフスを有する吸収性製品

特 許 請 求 の 範 囲

(1) 液体透過性トップシートと、

前記のトップシートに組合わされた液体不透過性バックシートと、

前記のトップシートと前記のバックシートとの間に配置された吸収性コアと、

吸収性製品の各縁に隣接して配置された弾性収縮性ガasket カフスと、

前記のガasket カフスに隣接して配置され、遠位縁と近位縁とを有するバリヤ カフスとを含む一体型使い捨て吸収性製品。

(2) 吸収性製品の少なくとも股区域において吸収性製品の縁縁に隣接して弾性収縮性のガasket カフスが配置され、また前記の各ガasket カフスに隣接してバリヤ カフスが配置され、前記の各バリヤ カフスの前記の近位縁は前記ガasket カフスの横方向内側に配置されている特

許請求の範囲第1項による一体型使い捨て吸収性製品。

(3) 弾性収縮性ガasket カフスは、吸収性製品の少なくとも股区域において前記吸収性コアの縁に沿ってこの縁から突出した可撓性両側フラップと、前記両側フラップに対して弾性収縮性状態に固着されたフラップ弾性部材とを含み、前記の近位縁は前記両側フラップにおいて前記フラップ弾性部材と前記吸収性コアの縁との間に配置され、前記遠位縁は少なくとも股区域において固着されていない特許請求の範囲第1項または第2項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(4) 前記バリヤ カフスの前記遠位縁を前記トップシートの上面から離間するために前記バリヤカフスと結合されたスペース手段を含む特許請求の範囲第1項乃至第3項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(5) 前記のスペース手段はスペース弾性部材である特許請求の範囲第1項乃至第4項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(6) 前記のバリヤ カフスが前記トップシートと一体を成す特許請求の範囲第1項乃至第5項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(7) 前記バリヤ カフスが前記の両側フラップと一体を成す特許請求の範囲第3項、第4項または第5項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(8) 前記のバリヤ カフスは液体不透過性である特許請求の範囲第1項乃至第7項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(9) 前記バリヤ カフスの一部を閉鎖状態に固着するために前記バリヤ カフスの各端部に隣接配置された接着剤手段を含み、少なくとも該部分の前記バリヤ カフスの連位置の一部は、前記トップシートから離間されるように固着されていない特許請求の範囲第1項乃至第8項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

(10) 前記バリヤ カフスが追加的に吸収性手段を含む特許請求の範囲第1項乃至第9項のいずれかによる一体型使い捨て吸収性製品。

1975年1月14日にケネス パークレイ ビュエルに発行された米国特許第3,860,003号に開示されているような最近の使い捨てオシメは、トップシートと、バックシートと、吸収性コアと、着心地と分泌液収容能力を改良する弾性脚フラップとを有する。これらの弾性脚フラップはオシメの縁と胴体衣服との間の液体不透過性バリヤを成し、さらに着用者の脚の周りにガasket作用を成すが故に、液体で濡れたオシメからこのオシメの縁に接触する衣服への浸透作用およびあふれ作用を防止するのに一般的に有効である。しかしこのような構造の有効性にもかかわらず、分泌液、特に排泄された糞が弾性の脚フラップを通して濡れ着用者の衣服を汚す場合がある。これは、オシメがこのような物の自由流出を拘束する事ができず、またこれを内部に保持する構造を成していないので、このような物がトップシートの上面を自由に浮動する際に弾性脚フラップを通り抜けるからである。

【発明の目的および効果】

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は使い捨てオシメなどの吸収性製品に関するものであり、特に製品の収容能力を改良するガasket カフスおよびバリヤ カフスを有する吸収性製品に関するものである。

〔従来技術と問題点〕

使い捨てオシメおよび大人用失禁ブリーフなどの吸収性製品の主たる機能は人体の分泌物を吸収し収容するにある。これらの製品は、分泌物が衣服その他、着用者と接触する寝具などの物品を汚し、腐らしたまたは汚染する事を防止するためのものである。このような製品について見られる最も一般的な失敗の例は、分泌物がこの製品の中に直接に吸収されずに製品と着用者のウェストまたは脚との間の隙間を通して胴体の衣服まで漏出する場合である。これは吸収性製品によって容易に吸収されず吸収性製品の上面で“浮遊”する傾向のある排泄された糞の場合に最も明白である。

従って本発明の目的は、改良された収容能力を有する吸収性製品を提供するにある。

本発明の他の目的は、分泌物の漏出を拘束するバリヤとして作用するバリヤ カフスを有する吸収性製品を提供するにある。

本発明のさらに他の目的は、分泌物の漏出に対して二重拘束作用を成し、特に糞に対する吸収性製品の収容能力を改良するように、弾性圧縮性のガasket カフスとバリヤ カフスとを有する吸収性製品を提供するにある。

また本発明の他の目的は、製品を着用したときにトップシートの上面上方に持ち上げられて、分泌物を内部に拘束し保持するチャンネルを形成するバリヤ カフスを有する吸収性製品を提供するにある。

【発明の概要】

本発明によれば、液体透過性トップシートと、液体不透過性バックシートと、トップシートとバックシートとの間に配置された吸収性コアと、少なくとも1個の弾性収縮性ガasket カフスと、

少なくとも1個のバリヤ カフスとを有するオシメなど 一体型使い捨て吸収性製品が提供される。バリヤ カフスは近位縁と遠位縁とを有する。さらにこの吸収性製品は前記の遠位縁をトップシートの上から離間するためのスペーサ手段を備える。また、着用者手取によりバリヤ カフスの末端部分を閉鎖状態に面着する。遠位縁がトップシートの上から離間されているので、少なくとも股区域において近位縁と遠位縁との間にチャンネルが形成される。

本発明の実施態様のオシメを着用したとき、バックシートが股区域においては着用者の内腿と会陰に沿って、また後ウエスト区域においては着用者の臀部に沿って立ち上がる。吸収性コアによって直接に吸収されない分泌物、特に糞がバリヤカフスに接触してチャンネルの中に収容保持されるのでオシメと着用者の脚またはウエストとの隙間から漏出しないから、漏出防止作用が増進される。またこのような分泌物がバリヤ カフスを越えて漏出したとしても、ガスケツト カフスが着

用者の脚またはウエスト回りに追加的液体不透過バリヤを成すので、漏出防止作用がさらに増進される。

〔実施例〕

以下、本発明を図面に示す実施例について詳細に説明する。これらの図において同一の数字は同様の要素を示すために使用される。

この明細書において、“一体的使い捨て吸収性製品”とは、身体の分泌物を吸収し収容する製品に關するものであり、さらに詳しくは、身体から排泄される種々の分泌物を吸収し収容するため着用者の身体に密着または近接して配置され、1回の使用後に放棄され（すなわち洗濯され、またはその他の方法で貯蔵されあるいは再使用されず）、また別個のホルダーまたはライナーなどの取り扱い部材を必要としないが故に単一体である製品を言う。本発明の一体的使い捨て吸収性製品、使い捨てオシメ20の好ましい実施態様を第1図に示す。ここに、オシメとは、一般に幼児と失禁者が

胴体下部に着用する衣服を言う。しかし本発明は、失禁用ブリーフなど、他の一体的使い捨て製品にも適用されるものと理解されたい。

第1図は本発明のオシメ20の平坦な引き伸ばされた状態（すなわち、すべての弾性部材による収縮を引き伸ばした状態）の平面図であって、このオシメの構造を一層明瞭に示すために構造の一部を除去し、着用者と接触するオシメの部分を上にして示す図である。第1図においてオシメ20は、前ウエスト部分24と、後ウエスト部分26と、股部分28と、外周28とを有し、この外周28はオシメ20の外側縁によって形成されて、縦縁30と末端縁32とを含む。オシメ20は横方向中心線34と縦方向中心線36とを有する。

オシメ20は下記の要素を含む。液体透過性トップシート38、その表面を40とする；液体透過性バックシート42；吸収性コア44、このコアは両側縁46を含み、吸収層48と第一および第二ティッシュ層50、52を含む；一対のテープ・タブファスナー54；縁フラップ58とフ

ラップ弾性部材69とを含むガスケツト カフス56；それぞれ近位縁64、遠位縁66、内側面68、外側面70、第一端部72および第二端部74を有するバリヤ カフス58；およびバリヤカフスの遠位縁66をトップシート38の上から40から離間するためのスペーサ弾性部材77などのスペーサ部材76。オシメ20はさらに、各バリヤ カフス58の第一端部と第二端部72、74を相互に接着閉鎖するためのグルーピース79などの接着手段78を含む。接着手段78の配置された区域はそれぞれ前閉鎖区域80および後閉鎖区域82と呼ばれる。トップシート38、吸収性コア44、バックシート42および弾性収縮性ガスケツト カフス56は公知の種々の形状に組立てる事ができ、好ましいオシメの構造は、1975年1月14日、K. B. ビュエルに発行された米国特許第3,860,003号、“使い捨てオシメの収縮性両側部分”に記載されている。これを引用として加える。

第1図はオシメ20の好ましい実施態様を示し、

この場合にトップシート38とバックシート42は両延長を有し、吸収性コア44より全体として大なる長さ寸法と幅寸法とを有する。トップシート38がバックシート42の上に重ね合わされて、オシメ20の外周28を成す。外周28はオシメ20の外周すなわち縁部を成す。この外周28は、末端縁32と縦縁30とを含む。

オシメ20は前ウエスト部分22と後ウエスト部分24とを有し、これらのウエスト部分はそれぞれオシメ20の外周28の末端縁32からオシメ20の横中心線34に向かって、オシメ20の長さの約1/4〜約1/3の長さを延在している。これらのウエスト部分は、オシメ20を着用したときに着用者のウエストを包囲する部分を成す。股部分26は、ウエスト部分22と24との中間部分であって、着用されたときに着用者の両脚の間に配置され別体下部を取り囲む部分を成す。

第2図は第1図の2-2線に沿った部分断面図であって、オシメ20の前ウエスト部分22の構造を示す(オシメ20の後ウエスト部分24の構

造は前ウエスト部分22の構造と同一であると了解されたい)。吸収性コア44は吸収性層48を含み、この層は第一および第二ティッシュ層50と52によって完全に包囲されている。吸収性コア44はトップシート38とバックシート42との間に配置される。これらトップシート38とバックシート42のいずれも吸収性コア44の縦縁46から突出して両側フラップ58を成している。トップシート38とバックシート42の並置区域は接着剤層88によって相互に接着されている。好ましい実施態様において、フラップの弾性部材60は前ウエスト部分22の中まで延長されないで、この部分にはガasket カフス56は形成されない。バリヤ カフス62はトップシート38に固着された別個の要素として示されている。その近位縁64はトップシート38に対して接着剤92によって接着する事によって形成される。内側面68はトップシート38の面40に対して接着剤78によって接着されている。従って、遠位縁66が閉鎖されている(すなわち、遠

位縁はトップシート38の面40から離隔されていない)。このウエスト部分では、遠位縁66がトップシート38の面40から離隔されないで、この部分ではスペーサ弾性部分77が配置されていない事を注意しよう。従って、この部分ではバリヤ カフス62は開かれていず、また身体の分泌物の流れを止める事ができない。

第3図は第1図の3-3線に沿って取られた部分断面図であって、オシメ20を着用者に着用させる前の股部分26の構造を示す(すなわちオシメ20が弾性的に収縮された状態)。吸収性コア44は吸収性層48を含み、この層は第一および第二のティッシュ層50と52によって完全に包囲されている。吸収性コア44はトップシート38とバックシート42との間に配置され、これらのトップシート38とバックシート42はいずれも吸収性コア44の縦縁46から突出して、両側フラップ58を成す。トップシート38とバックシート42の並置区域は相互に接着剤88によって接着されている。またトップシート38とバック

シート42は、外周28の縦縁30に隣接した位置にフラップ弾性部材60を密閉している。このフラップ弾性部材60は弾性取り付け手段90によって、フラップ58のトップシート38とバックシート42に固着されている。このようにして、フラップ58と弾性部材60とによって、弾性収縮性ガasket カフス56が形成される。この実施態様においてはバリヤ カフス62は、前記のフラップ弾性部材60と吸収性コア44の縦縁46との間においてトップシート38に要素を固着する事によって形成される。バリヤ カフス要素をトップシート38に対して接着剤92によって固着する事によって、バリヤ カフスの近位縁64が形成される。バリヤ カフスの一端をそれ自体の上に折り返して形成されたトンネルの中に、スペーサ弾性部材77が密閉される。スペーサ弾性部材77はバリヤ カフスの中に弾性取り付け手段94によって固着される。バリヤ カフスの遠位縁66がスペーサ弾性部材77の弾性収縮作用によってトップシート38の上面40から

離開され、少なくとも近位縁64と、遠位縁66と、バリヤカフス62の内側面68とによってチャンネル96が形成される。チャンネル96は図においては、オシメ20が着用者から除去されるまで、分泌物を抑止し保持する状態に示されている。

トップシート38は着用者の皮膚に対して柔軟で、柔らかい感触を与え、刺激しない。また、トップシート38は、液体をその厚さを通して容易に透過させる透過性である。適切なトップシート38は、多孔性フォーム、網状フォーム、アパチュアプラスチックフィルム、天然繊維（例えば木質繊維あるいは綿繊維）、合成繊維（例えばポリエステルあるいはポリプロピレンファイバ）または天然繊維と合成繊維との組合せなど、広い範囲の材料から製造することができる。好ましくは、着用者の皮膚を吸収性コア44の中の液体から離開するために親水性材料で作る。

特に好ましいトップシート38は、デラウエア、ウィルミントン社のハーキュリーズ社製のハーキ

ュリー151型ポリプロピレンなど、約1.5デニールを有するステープル長のポリプロピレンファイバーを含む。ここに、“ステープル長のファイバー”とは、少なくとも約15.9mm(0.625インチ)の長さを有するファイバーを言う。

トップシート38の製造に使用される多く技術がある。例えば、トップシート38を織布とし、不織布とし、スパンボンド布とし、カードなどとする事ができる。好ましいトップシート38はカードであって、業界公知のように加熱結合される。好ましくは、トップシート38は、約18～約25g毎平方メートルの重量と、マシン方向において少なくとも約400g毎センチメートルの最小乾強引張り強さと、クロスマシン方向において少なくとも約55g毎センチメートルの縦強引張り強さとを有する。

吸収性コア44は、一般的に圧縮性の、形状適合性の、着用者の皮膚を刺激せず、液体と身体のある種の分泌物を吸収して保持する事のできる任

意の手段とする事ができる。好ましい吸収性コア44は第一面と第二面とを有し、吸収性層48と第一および第二ティッシュ層50、52とを含む。第一および第二ティッシュ層50、52は吸収性層48の両面に重なって、吸収性コアの第一および第二対向面を成す。

吸収性層48は、種々のサイズおよび形状に作られ（長方形、砂時計状など）、一般にエアフェルトと呼ばれる粉砕木材パルプなど、使い捨てオシメおよびその他の吸収性製品に通常使用される各種の液体吸収性材料から作られる。他の適当な吸収性材料の例は、クレープセルローズ、ワッディング、吸収性フォーム、吸収性スポンジ、超吸収性重合体、またはその他の任意の同等の材料または材料組み合わせを含む。しかし、吸収性層86の全吸収容量はオシメ20の使用目的において予想される分泌物投入量と関連するものでなければならない。また、吸収性層48のサイズと吸収容量は、幼児から大人までの着用者に対応するように変動されなければならない。

第1図に示すオシメ20の好ましい実施態様は、砂時計状の吸収性層48を有し、約5kgから約12kg(約12ポンドから約26ポンド)の体重の幼児によって着用されるためのものである。吸収性層48に使用されるエアフェルトは約30～56kgであり、全体として均一なキャリバを有し、約8～16gの水分毎吸収性材料gの吸収容量を有する。しかし吸収性層48のサイズ、形状、形態および全吸収容量は幼児から大人までの着用者に適合するように変動させる事ができる。従って吸収性層48の寸法、形状および形態を変動させて、例えば吸収性層が変動キャリバまたは親水性グラジエントを有し、または超吸収性材料を含有する事ができる。故に好ましくは、吸収性層は、幅約32cm(横寸法)、長さ約45cm(縦寸法)、股部分の最狭部の横寸法約7cmを有するエアフェルトの塊である。

第一および第二ティッシュ層50、52は吸収性コア44の引っ張り強度を改良し、また吸収性層48が固れたときに分裂し、塊を成し、または

膜状を成す傾向を低下させる。第一および第二ティッシュ層50と52は吸収された分泌物の横方向搬送を助長し、これにより吸収性層48全体に分泌物を均等に分布させる。第一および第二ティッシュ層50、52の製造のために多数の材料と製造技術を使用する事ができるが、約16g/平方メートル(10ポンド/3000平方フィート)の坪量と、約12.8ミリメートル水柱(1/2インチ)の差圧で約30.5立方メートル/部分毎平方メートル(100立方フィート/部分毎平方フィート)の空気透過率を有するティッシュペーパーによって満足な結果が得られた。第一および第二ティッシュ層50と52は好ましくは吸収性層48と同延長とする事ができるが、相異なる寸法と形状を有し、またはこれを全く省略する事ができる。

吸収性コア44はバックシート42上に重ね合わされ、好ましくは業界公知のような取り付け手段(図示されず)によって取り付けられる。例えば接着剤の均一な連続層、接着剤のパターン層、ま

たは接着剤の個別のラインまたは点の列によって、吸収性コア44をバックシート42に対して接着する事ができる。有効と思われる接着剤は、テネシー、キングスポート、イースタンケミカルプロダクツ社製の商標Eastobond A-3で市販されているものである。

バックシート42は液体不透過性であって、好ましくは薄いプラスチックフィルムによって製造され、他の可撓性液体不透過材料を使用する事もできる。バックシート42は、吸収性コア44の中に吸収され包蔵された分泌物がベッドシート、下着など、オシメ20と接触する物を濡らす事を防止する。好ましくは、バックシート42は、約0.012mm(0.5ミル)乃至約0.051cm(2.0ミル)の厚さを有するポリエチレンフィルムとするが、他の可撓性液体透過性材料を使用する事ができる。ここに、“可撓性”とは、形状適合性であって、人体の一般的形状と輪郭に容易に一致する材料を言う。

適当なポリエチレンフィルムはモンサントケ

ミカル社によって製造され、商標File No. 8020で市販されている。好ましくはバックシート42は、市伏外観を与えるため、エンボス処理され、および/またはつや消し仕上りされている。さらにバックシート42は、分泌物の透過を防止しながら、吸収性コア44から水蒸気を脱出させる。

バックシート42のサイズは、選ばれた吸収性コア44のサイズと正確なオシメのデザインによって決定される。好ましい実施態様においては、バックシート42は、オシメ20の外周28全体から少なくとも約1.3cm~2.5cm(約0.5~約1.0インチ)の最小距離、吸収性コア44から突出した変形砂時計の形状を有する。

トップシート38とバックシート42は任意適宜に結合される。この場合、“結合”とはトップシート38を直接にバックシート42に固着する事によりトップシート38をバックシート42に直接接合する構造と、トップシート38を介在部材に対して固着し、この介在部材をバックシート42に固着する事によりトップシート38をバック

シート42に間接的に接合する構造とを包括する。好ましい実施態様において、トップシート38とバックシート42はオシメ20の外周28において、接着剤88など業界公知の固着手段によって相互に直接に接合される。例えば、接着剤の均一連続層、接着剤のパターン層、または接着剤の個別のラインまたは点の列を使用する事ができる。

オシメ20を着用者の上に保持する締結手段として、オシメ20の後ウエスト部分24に対してテープ・タブファスナー54を取り付ける事ができる。テープ・タブファスナー54は、1974年11月19日にK. B. ビュエルに発行された米国特許第3,848,594号に記載された型の締結テープなど、業界公知の任意のものとする事ができる。このテープ・タブファスナー54またはピンなどの他のオシメ締結手段は、代表的にはオシメ20の“使用”状態での上端近くに取り付けられる。

弾性収縮性のガスケットカフス56は、オシメ20を着用者の腰部に引っ張って連続保持す

ように、オシメ20の外周28に隣接して、好ましくは各縦線30に沿って配置される。あるいは、ガスケットカフス56をオシメ20の末端縁32の一方または両方に隣接して配置し、脚カフスではなくウェストカフスを成す事ができる。ガスケットカフス56はオシメ20の周縁公知の任意の手段とする事ができるが、特に好ましいガスケットカフス構造は、米国特許第3,860,003号に詳細に記載のように可撓性両側フラップ58とフラップ弾性部材60とを含む事ができる。また弾性収縮性ガスケットカフス56を有する使い捨てオシメの製造に連した方法および装置が、1978年3月28日にR. B. ビュエルに発行された米国特許第4,081,301号“使い捨て吸収性製品の特定の離脱部分に別個の引き伸ばされた弾性ストランドを連続的に取り付ける方法および装置”に記載されている。この特許を引用として加える。

両側フラップ58は、弾性部材60がこのフラップ58のギャザをよせて着用者の脚またはウェ

スト回りにガスケットカフス56を成すように高度に可撓性で収縮性でなければならない。両側フラップ58は、オシメ20の外周28と吸収性コア44の縦線46の間の部分である。故に第1図に示す本発明の好ましい実施態様においては、両側フラップ58は、少なくとも股部分26においてオシメ20の吸収性コア44の縁46から突出したバックシート42とトップシート38の延長部によって構成される。

フラップ弾性部材60は、両側フラップ58に対して弾性的に収縮した状態で固着されているので、通常の非拘束状態においてはフラップ弾性部材60は両側フラップ58を確実に収縮させまたはギャザ寄せしている。フラップ弾性部材60は両側フラップ58に対して少なくとも2種の方法で弾性的に収縮した状態に固着する事ができる。例えば両側フラップ58が自由な状態にある間に、フラップ弾性部材60が引き伸ばされて両側フラップ58に対して固着される。あるいは、両側フラップ58を例えば、ひだ寄せによって収縮させ

緩んだまたは引き伸ばされない状態にあるフラップ弾性部材60を収縮した両側フラップ58に固着する事ができる。

第1図の実施態様においては、フラップ弾性部材60はオシメ20の股部分26の両側フラップ58の實質的に全長に延在している。あるいはこのフラップ弾性部材60がオシメ20の全長に延在する事ができ、または、弾性収縮性ガスケットカフスを成すに連したその他の任意の長さとする事ができる。フラップ弾性部材60の長さはオシメのデザインによって決定される。

第3図に示すオシメ20の構造においては、フラップ弾性部材60は、これを弾性取り付け手段90によって両側フラップ58に固着する事によって取り付けられている。弾性取り付け手段90は可撓性であって、またフラップ弾性部材60をその引き伸ばされた状態に保持するに十分な撓性を有しなければならない。弾性取り付け手段90はこの場合好ましくはウイスコンシン、エルムグループ、フィンドレアドヘッソからFied-

ley Adhesives 5-81として市販されているような熱融解性接着剤から成るグルーピースが好ましい。フラップ弾性部材60をオシメ20に対して配置し固着する方法のさらに詳細な説明は、1981年3月3日、ストリ克蘭ドおよびビッシャに発行された米国特許第4,253,461号およびビュエルに発行された米国特許第4,081,301号に記載されている。この両方の特許を引用として加える。

適当とみなされたフラップ弾性部材60は、バージニア、スチュアート、イーストハンプトンラバースレッド社から商標1900 Rubber Compoundとして市販されている天然ゴムから成る断面積0.18mm²×1.5mmの弾性ストランドである。他の適当なフラップ弾性部材60は、ノースカロライナ、スコットランド、ファルフレックス社製造の商標Fullex 8211で市販されている弾性テープなどの天然ゴム製品で作る事ができる。またフラップ弾性部材60は業界公知のどのような任意の熱収縮性弾性材料を含む事ができる。

その他の適当なフラップ弾性部材60は、弾性フィルム、ポリウレタンフィルム、エラストマーフォームおよび成形弾性スクリーンなど、業界公知の各種の材料を含む事ができる。

さらに、フラップ弾性部材60は種々の形状を取る事ができる。例えばフラップ弾性部材60の幅は、約0.25mm(0.01インチ)〜約25mm(1.0インチ)またはこれ以上に変動する事ができる。またフラップ弾性部材60は弾性材料の1本のストランドから成り、また弾性材料の数本の平行なまたは非平行なストランドから成る事ができる。あるいは、フラップ弾性部材60は直線形または曲線形とする事ができる。さらにフラップ弾性部材60は業界公知の任意の方法によってオシメ20に対して固着する事ができる。例えば、種々の結合パターンにより、オシメ20の中に超音波結合、または加熱/加圧密着する事ができ、または単にオシメ20に対して接着剤で接着する事ができる。

各バリヤ カフス62は、近位縁64、遠位縁

66、内側面68および外側面70を有する可撓性部材である。ここに可撓性とは、形状適合性であって、身体全体の形状と輪郭に容易に一致する材料を言う。またもしスパーサ手段76がスパーサ弾性部材77を含むのであれば、バリヤ カフス62は収縮性であって、その遠位縁66がトップシート38の面40から十分に離間されてチャンネル96を成し、分泌物をオシメ20の中に拘束し、収容しまた保持するようにしなければならない。バリヤ カフス62は、ポリプロピレン、ポリエステル、レーヨン、ナイロン、フォーム、プラスチックフィルム、成形フィルムおよび弾性フォームなど各種の材料で製造する事ができる。またバリヤ カフス62を製造するために種々の製造技術を使用する事ができる。例えば、バリヤ カフス62を織物とし、不織布とし、スパンボンド布とし、カードとしまたは類似のものとする事ができる。特に好ましいバリヤ カフス62はこれを液体不透過性とするために、表面仕上剤または界面活性剤を含有しないポリプロピレン材料を

含む。特定の好ましいポリプロピレン材料は、クラウン ゼラパッチ社からCELESTRAとして市販されている。

第1図と第3図に見られるように、バリヤ カフス62、特にその近位縁64はガasket カフス56の内側に、好ましくはこれに隣接して配置されている。“内側”とは、それぞれのガasket カフス56を配置するオシメ20の縁に対して平行な中心線38に向かう方向である。バリヤ カフス62がガasket カフス56の内側に配置されるので、分泌物、特に容易に吸収されずトップシート38の面40に付着して浮遊する菌がガasket カフス56に達するまでにバリヤ カフス62と接触する。バリヤ カフス62はこのようにガasket カフス56に隣接配置されて、分泌物の流れに対する有効な二重の抑制作用を成す。バリヤ カフス62は、好ましくはガasket カフス56のフラップ弾性部材60とオシメ20の腹中心線38との間に配置される。特に好ましくは、バリヤ カフス62は、オシメ20

0の腹部分26において、フラップ弾性部材60と、吸収性コア44の縁46との間に配置される。

バリヤ カフス62の近位縁64と遠位縁66は相互に離間されて、バリヤ カフス62の幅を限定している。近位縁64と遠位縁66は、相互に平行、非平行、直線または曲線とする事ができる。さらにバリヤ カフス62は円形、正方形、長方形または第3図に図示のようなその他の任意の形状の断面形状を有する事ができる。好ましくは、近位縁64が遠位縁66から平行に直線的に離間されて、均一幅のバリヤ カフス62を成す。各バリヤ カフス62は、好ましくは少なくとも約5mm、好ましくは約10mm〜約25mmの幅を有する。

第1図に図示のオシメ20の好ましい実施態様はトップシート38に接合されたバリヤ カフス62を備えている。ここに用語“接合”とは、バリヤ カフス62をオシメ20に固着する任意の手段を意味し、バリヤ カフス62がトップシート38に直接または間接に取り付けられた近位縁

64を有する別個の要素である場合(すなわち複合型)、あるいはバリヤカフス62がトップシート38と同一の要素または素材から成り、その近位縁64がトップシート38の連続不可分要素である場合(すなわち一体型)とを含む。あるいはバリヤカフス62を両側フラップ58、バックシート42、吸収性コア44、トップシート38、またはこれらの要素あるいはその他の要素の任意の組合せに接合する事ができる。好ましいオシメ20においては、バリヤカフス62がトップシート38と複合組み立て体を成す。複合型バリヤカフス62は好ましくは、トップシート38に対して接着剤92によって接着された1本のストリップによって形成され、その遠位縁66は材料束端を折り返す事によって形成される。

好ましくは遠位縁66は近位縁64の内側に配置されて、分泌物の流れに対して一層有効なバリヤを成す。これらの縁の位置の逆転を防止するため、遠位縁66を接着剤78によって近位縁64の内側に保持する。あるいは遠位縁66を近位縁

64に対して他の位置に配置する事ができるが、このような位置は好ましくない。

遠位縁66は少なくともオシメ20の股部分26においては、トップシート38の上側面40から離間されるように他の要素に固着されない事が好ましい。好ましくは、バリヤカフス62がチャンネル96を形成してオシメ20の収容能力を増大するように、その遠位縁66がトップシート38の上側面40から離間される。この場合、“離間”とは、遠位縁66がトップシート38の上側面40に隣接した位置をとる場合を含めてこの上側面40に対して一つまたは複数の位置をとる実施態様を含むものとする。遠位縁66からトップシート38の上側面40までの間隔は、遠位縁66がトップシート38から最大限に離間した位置において(すなわち弾性的に収縮した位置において)この遠位縁66からトップシート38の最近部まで引かれた線に沿って測定される。好ましくは、遠位縁66はトップシート38から、少なくとも約2mm、さらに好ましくは約5mm(約1/4")乃至

約10mm(3/8")の高さに離間される。

チャンネル96はバリヤカフスの少なくとも近位縁64と遠位縁66および内側面68に沿って形成される。このチャンネル96は、分泌物がトップシート38に沿って移動しまたは浮遊するときに、これに対するバリヤを成す。このようにチャンネル96はオシメ20が除去されるまで分泌物を保持し収容する。

バリヤカフス62はさらに吸収性手段を固着されまたはその内部に備える事ができる。この吸収性手段は、バリヤカフス62と接触する分泌物を吸収して収容する。吸収手段は分泌物を吸収して保持する事のできる任意手段とし、任意のサイズ、形状、構造または吸収能力を有する事ができる。吸収手段はバリヤカフス62の内側面68に沿って、またはその内部に配置する事ができる。好ましくは、吸収性手段は、複合型バリヤカフスによって形成されたトンネルの内部に固着され、バリヤカフスの内側面68の全長および全幅に沿って固着されたエアフェルト層とする。

さらに、バリヤカフス62は、分泌物の突破を防止するように不透過性とする事ができる。液体不透過性バリヤカフス62はこれを通過しようとする液体の運動を遅らせる事により、それだけ遅れ抵抗性となる。バリヤカフス62は、これを特別に処理し、または処理せず、またはバリヤカフスに別個の部材を固着するなど、業界公知の任意の方法によって不透過性とする事ができる。

遠位縁66をトップシート38上側面40から離間するスペーサ手段76は、分泌物の流れを防止するためにバリヤカフス62に沿ってチャンネル96を形成させるようにバリヤカフス62をギャザ等せし、収縮させ、硬化させ、短縮させ、またはその他の作用を及ぼす任意の部材である。

第1図に図示のように、スペーサ手段76はバリヤカフス62の内部に遠位縁66に隣接して固着されたスペーサ弾性部材77を含む。このスペーサ弾性部材77は、弾性的に収縮した状態のバリヤカフス62に対して固着され、バリヤカフスの自由な状態においてスペーサ弾性部材7

7 がバリヤ カフス 62 を有効に収縮させまたはギャザ寄せする事が好ましい。スぺーサ弾性部材 77 は、前記の K. B. ビュエルに発行された米国特許第 3, 860, 003 号に記載のように少なくとも二つの方法で、弾性的に収縮状態のバリヤ カフス 62 に対して固着する事ができる。また、スぺーサ弾性部材 77 の長さ全体はオシメ 20 のデザインによって決定される。第 1 図の実施態様においては、スぺーサ弾性部材 77 は、図 26 においてバリヤ カフス 62 の全長に沿って延在するが、他の長さを有する事もできる。

図 3 図に図示のように、スぺーサ弾性部材 77 は、これを弾性取り付け手段 94 をもってバリヤ カフス 62 の内部に固着する事によって取り付けられる。スぺーサ弾性部材 77 はその末端部付近のみをバリヤ カフス 62 に対して固着する事もできるが、好ましくはスぺーサ弾性部材 77 の全長をバリヤ カフス 62 に対して固着する。この場合、弾性取り付け手段 94 は好ましくは、ワイスコンシン、エルムグループ、フィンドレ アド

ヘンシブ社から商標 Findley Adhesives 581 として市販されているものなどの熱融解性接着剤から成るグルービーズである。スぺーサ弾性部材 77 をバリヤ カフス 62 の内部に配置して固着する方法の詳細な説明は、1978 年 3 月 28 日にビュエルに発行された米国特許第 4, 081, 301 号および 1981 年 3 月 3 日、ストリクランドおよびビッシヤに発行された米国特許第 4, 253, 461 号に記載されている。これらの両方の特許を引用として加える。各バリヤ カフス 62 を弾性化するために単数または複数のスぺーサ弾性部材 77 を使用できる事を注意しなければならない。

本発明において適当であるとみなされたスぺーサ弾性部材 77 は、バージニア、スチュアート、イーストハンプトン ラバー社から商標 L-1900 Rubber Compound として入手される天然ゴムの断面積 0.18 mm x 1.5 mm の弾性ストランドである。他の適当なスぺーサ弾性部材 77 は、ノースカロライナ、スコットランドのファルフレ

ックス社から商標 Fulltex 9211 で市販されている弾性テープなどの天然ゴムで作られる。またスぺーサ弾性部材 77 は業界公知の熱収縮性弾性材料を含む事ができる。他の適当な弾性材料はエラストマーフィルム、ポリウレタンフィルム、エラストマーフォームおよび成形弾性スクリーンを含めて業界公知の各種の材料とする事ができる。

さらに、スぺーサ弾性部材 77 は多くの形状をとる事ができる。例えば、その幅を変更する事ができる。スぺーサ弾性部材 77 は弾性材料の 1 本のストランドまたは相互に平行または不平行な数本のストランドから成り、あるいは直線または曲線とする事ができる。さらに、スぺーサ弾性部材 77 は業界公知の任意の方法によってバリヤ カフス 62 に対して固着する事ができる。例えば、種々の結合パターンを用いて、バリヤ カフス 62 の中に超音波結合し、または加熱密着する事ができ、または単にバリヤ カフス 62 に接着する事もできる。

バリヤ カフス 62 の遠位縁 66 をトップシー

ト 38 上面 40 から離隔するスぺーサ手段 76 は、他の種々の要素とする事ができる。例えばバリヤ カフス 62 の内部にまたはその上に配置された補強手段とする事ができる。この補強手段は遠位縁 66 がトップシート 38 の上面 40 から離隔される程度に剛性でなければならない。この補強手段の適当な材料は、フォーム、不織布、パット、ポリエチレンフィルム、成形フィルム、スプレーグルー、成形エラストマー、ポリエステル、ポリウレタン、またはカロライナ フォームド ファブリック社製造のハイロフト材料を含む。

またスぺーサ手段 76 は、オシメ 20 の縁の長さに比較して遠位縁 66 の長さを短縮する手段を成す。遠位縁 66 はこの遠位縁 66 において折り込みまたはブリーツを形成する事によって短縮する事ができる。この折り込みまたはブリーツは接着剤あるいは加熱密着など、業界公知のいずれかの保持手段によって固着される。あるいは、遠位縁 66 の一部を切り出し、その縁を合わせて付合わせ縫目または重ね縫目を形成する事ができ

また遠位線66は、オシメ20が平坦状態にあるときにこの遠位線66の存在する位置と異なる位置に、遠位線66の一定長をトップシート38に取り付ける事によって短縮する事ができ、他の公知の短縮技術を使用する事もできる。

閉鎖された状態のバリヤカフス62の末端部分72と74をトップシート38に固着する接着剤手段78が第1図と第2図に図示されている。この接着剤手段78は、着用者にとって着心地を良くし、このオシメ20を着用して使用する際にバリヤカフス62の遠位線66の反転を防止する。この反転とは、内側に配置された遠位線66がオシメ20の着用の際に外側に回転する場合である。第1図と第2図に示す好ましい実施態様においては、このような接着剤手段78はオシメ20の前ウェスト部分22と後ウェスト部分24のそれぞれ前閉鎖区域80と後閉鎖区域82とに配置されている。バリヤカフス62の他の部分は閉鎖状態に固着されていないので、遠位線66は自由に開放されている。好ましい実施態様にお

いて、前閉鎖区域80が前ウェスト部分22全体に延在し、後閉鎖区域82が後ウェスト部分24全体に延在する。この構造は、特に袋の漏れを防止するために着用者の尻の回りにチャンネル98を形成するのに好都合である。

接着剤手段78は、ウイスコンシン、エルムグロブ、フィンドレー アドヘシブズ社から商標 Findley Adhesives 581として市販されているものなどの加熱融解性接着剤から成るグルービーズ78が好ましい。

第4図は、着用者に着用される前の弾性的に収縮された状態のオシメ20の斜視図である。トップシート38はオシメ20の身体接触面として示され、バックシート42は着用者の身体と反対側に配置されている。ガスケットカフス56はフラップ弾性部材(第4図において図示されず)によってギャザよせされ、または収縮されている。オシメ20は、ガスケットカフス56の内側に隣接して延在する2本のバリヤカフス62を有する事が見られる。遠位線66は股区域26にお

いてスベータ弾性部材(図示されず)によってギャザよせされ収縮されてオシメ20に沿って縦方向のチャンネル96を成している。さらにバリヤカフス62の両端72と74はそれぞれ前後の閉鎖区域80と82において閉鎖されて、着用者の着心地を良くし、バリヤカフス62の反転を防止し、またオシメ20の着用を容易にしている。

後ウェスト部分24を着用者の背中の下方に当て、オシメ20の残部分を着用者の脚の間を引っ張って前ウェスト区域22を着用者の前側に当てる事によりオシメ20を着用する事ができる。つぎにテープ・タブファスナー54の末端をオシメ20の外側区域に固着する。このようにして、バリヤカフス62が着用者の股区域の中に配置され、前述の配置と機能を示す。オシメ20が着用されると、バリヤカフス62の遠位線66が股部を通り、着用者の両側の臀部に沿って上方に分かれる。いずれのバリヤカフス62も着用者の腿を包囲しない。しかしガスケットカフス56が腿を包囲して、腿に対してガスケット作用

を成す。バリヤカフス62の反転を防止し、着用中に着用者の着心地を良くしまた着用を容易にするため、バリヤカフス62の両端がトップシート38に固着されている。

第5図は着用者に着用された第1図のオシメ20の一部の冠状図である(冠状図とは身体の縦軸線を通る正面図である)。この図に図示のように、ガスケットカフス56が脚の上に垂れ下がって着用者の腿を包囲している。バリヤカフス62は両脚上に立ち上がって、股区域を通り、着用者の両臀部に沿って上方に分かれている。バリヤカフス62は着用者の腿を包囲しない。遠位線66はトップシート38の上面40から離間し、着用者の会陰に隣接している。従ってバリヤカフス62は、オシメ20の股区域26において着用者の会陰にピッタリと押し当てられている。吸収性コア44が会陰から押し出される傾向にあるので、チャンネル96のサイズがこの吸収性コア44の弾性によって拡大される。その結果、オシメ20は着用者の股区域に沿って延在するチャン

ル96を有する事になる。このようにチャンネル96が分給物の流れに対するバリヤを成すので、分給物はバリヤカフス62を越えて突出するを防止される。

基本的に本発明は排泄された糞に対して特に有効な漏れ防止性のオシメ20において、本発明を限定するつもりはないが、下記のようにして改良された収容特性の得られるオシメ20に関するものである。排泄された糞がトップシート38の上に排出されると、この糞はトップシート38の上面40の上を流れまたは浮遊する（下記において表面の糞と呼ぶ）。表面の糞は縦線30に向かって流れる。次に表面の糞はバリヤカフスの内側面68に接触する。通常の使用状態では、重力作用により、表面の糞は直立バリヤカフス62によって形成されたチャンネル96の中に集まり、オシメ20を取り替えるまでこのチャンネル96の中に保持される。糞がバリヤカフス62の遠位縁66を越えて流れるためには、着用者が直立姿勢にあるときに重力方向と反対方向に糞がチャ

ンネル86の中を上向きに流れなければならないので、収容力が改良される。しかしこの糞がバリヤカフス62を越えて流れたとしても、ガasketカフス58が着用者の脚回りに両側フラップ58をギャザ寄せしているので、このガasket効果によって糞はオシメ20からの漏出を遅らせられ、このようにしてガasketカフス58は糞の漏出に対する第二の阻害の有効なバリヤを成し脚部衣服の汚れを防止する。

第6図は本発明のオシメ20の第2実施態様のバリヤカフス662の断面を示す。一体型バリヤカフス662は、オシメ構造全体（すなわち、バックシート42、吸収性コア44およびトップシート38）をひだ寄せする事によって形成される。ひだ寄せの後、このバリヤカフス662の近位縁64を接着剤98によって相互に接着する。遠位縁66をトップシート38の上面40から離間するようにバリヤカフス662のこの遠位縁66を弾性化するため、その内部に固着されたスベサ弾性手段77などのスベサ手段を有す

事が好ましい。

第7図は第6図の構造の他の実施態様の断面図である。一体型バリヤカフス762は、本発明のオシメ20のバリヤカフス662と同様にトップシート38をU形に折り曲げ、すなわちひだ寄せする事によって形成される。トップシート38をそれぞれの上面に折り畳んで遠位縁66を形成し、この遠位縁66の中に形成されたトンネルの中にスベサ弾性部材77を固着する。近位縁64は、加熱融解性接着剤から成るグルービーズの接着手段100によって相互に接着される。

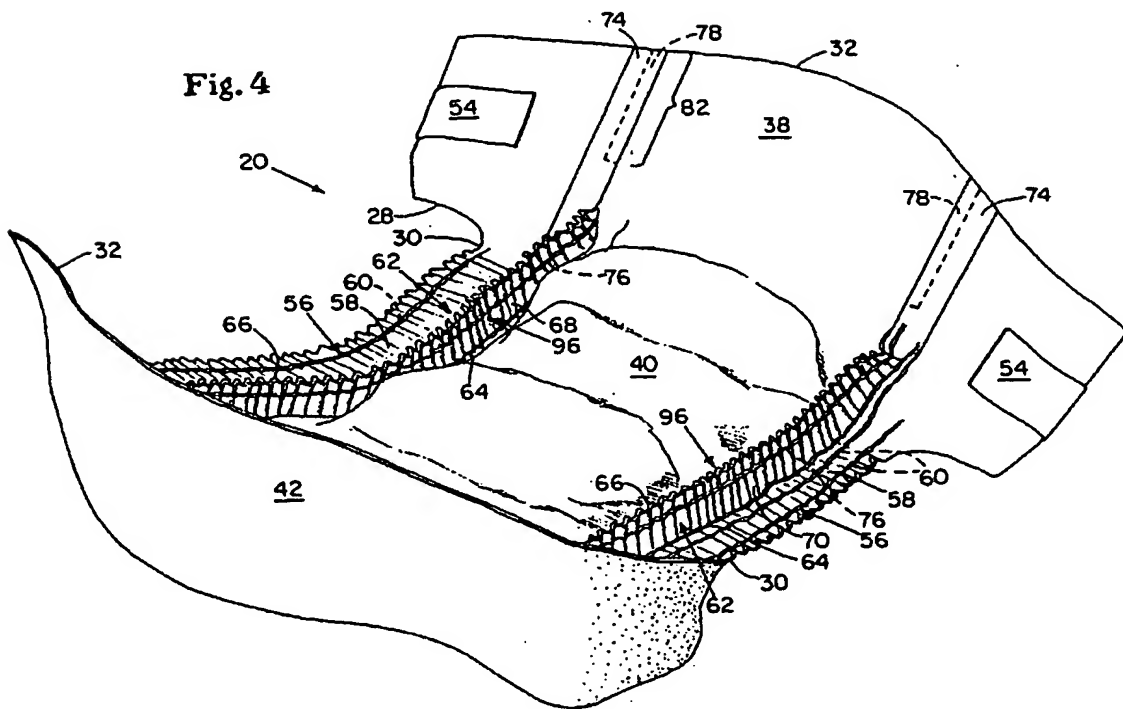
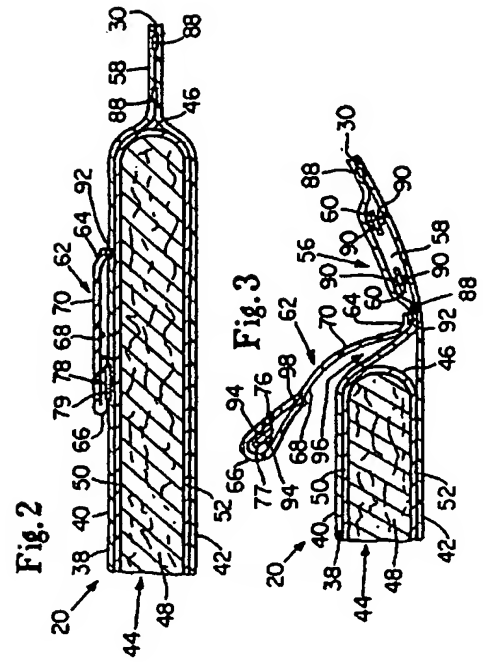
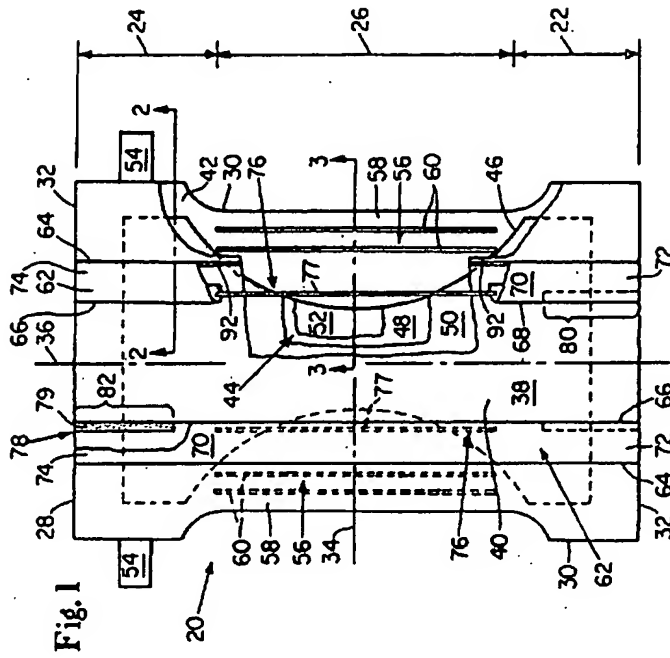
本発明は前記の説明のみに限定されるものでなく、その主旨の範囲内において任意に変更実施できる。

図面の簡単な説明

第1図は下部構造を示すために一部省略された本発明の使い捨てオシメの平面図、第2図は第1図の2-2線に付った部分断面図、第3図は第1図の3-3線に付ってとれた部分断面図、第

4図は第1図の使い捨てオシメの斜視図、第5図は第1図のオシメを着用者に着用させた状態を示す部分冠状図、第6図は本発明の他の実施態様の部分断面図、また第7図は本発明の第6図の構造の他の実施態様の部分断面図である。
38...トップシート、42...バックシート、44...吸収性コア、58...ガasketカフス、62...バリヤカフス、66...遠位縁、64...近位縁、78、92...接着剤、76...スベサ部材、96...チャンネル、662、762...バリヤカフス、

出願人代理人 佐藤 一雄



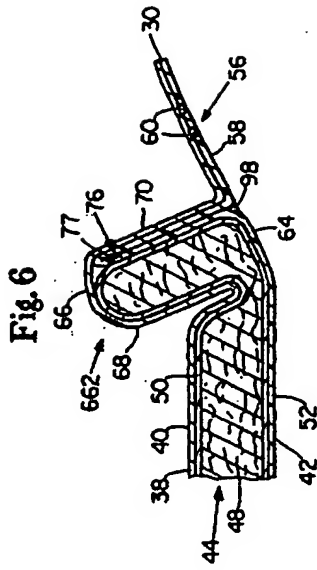


Fig. 5

